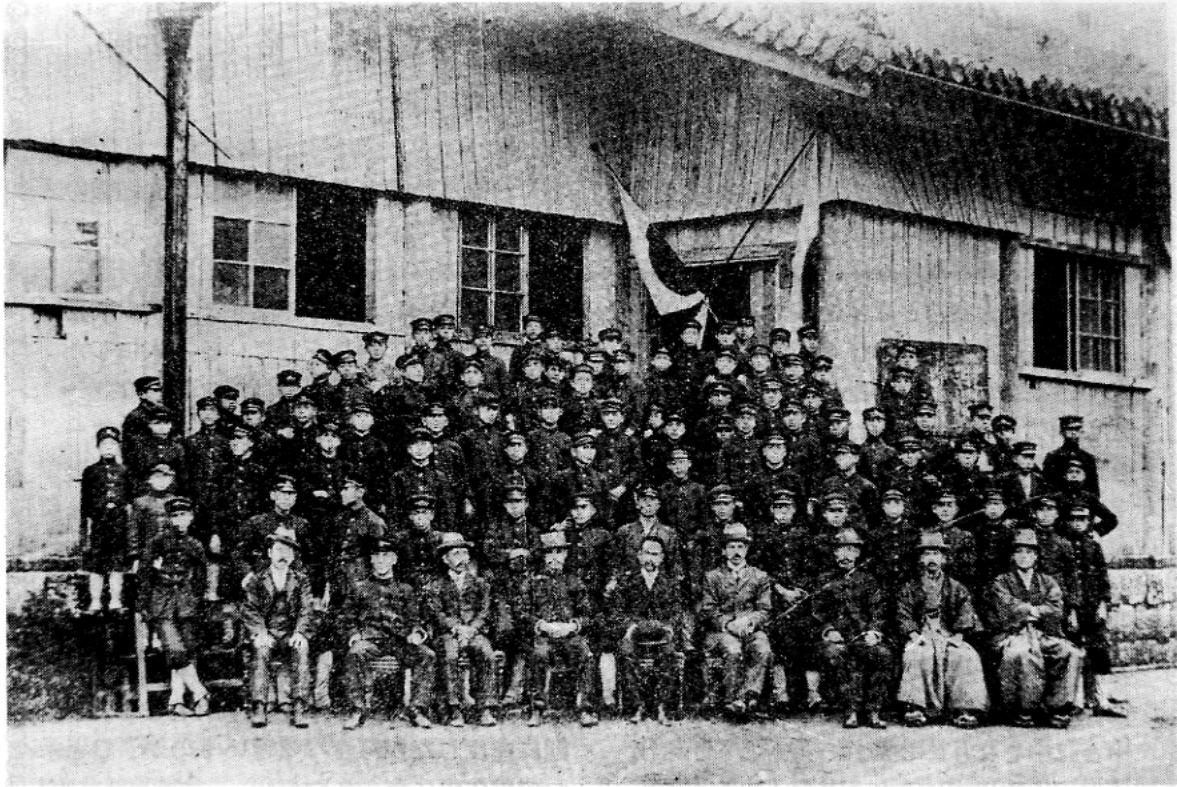


第3号

城岳同窓会

平成9年12月1日

中古報



首里城北殿で産声を上げ、生徒は「青雲の志」に燃え、意気盛んであった

◇1910年(明治43年)県立第二中学校が創立される◇

那覇高等学校の前身である県立第二中学校は、1910年(明治43年)4月1日、首里城北殿で産声を上げた。その前年、沖縄に県制が施された。当時、県内には、県立沖縄中学校(のちの県立第一中学校)の一校しかなく、それだけでは人材育成に不十分という世論が高まり、沖縄中学校の分校として県立二中が創立されたのである。入学募集に557人が志願し、そのうち、100人が入学、2学級を編成して分校は出発した。

校舎の首里城北殿は職員室(職員6人)、事務室、小使室、さらに、武道場も兼ねて使う

ありさまで、武道の時間には机も片付けて畳敷きにし、終わると元にもどして授業をした。

1911年(明治44年)1月、文部省告示によって県立中学校は第一中学校、分校は独立して第二中学校となった。太田朝敷著の「沖縄県制50年」によると初代の高良隣徳校長は「二中は沖縄に自治制が施された新沖縄の記念物であり、生徒は将来、新沖縄の指導者としての覚悟がなくてはならぬ、その責任は重大である」と、常々生徒を教え諭していたという。

二中は独立してまもなく、文武を表すペンと剣をあしらった帽章を決めた。

会員寄稿

◇二中と一中◇



大城立裕（二中29期）

二中と一中とは、何でも対立していた。好敵手という言葉があるが、それにあたるのだろう。最も派手な対立は、野球や陸上などの競技大会のときであった。

選手よりは応援団のほうが代理戦争に燃えている観があった。乱闘事件こそなかつたものの、いざ乱闘になつたらどうするか、という準備態勢そのものに意義があった。

私たちの二中29期には「リーダー旗事件」があって、そのことは55周年記念誌に書いた。

毎年秋におこなわれた両校の生徒をひっくりめての総合模擬試験は、壯観であった。四、五年生をあわせての試験で、場所を一中と二中を交互にした。一番がどこから出るか。十番以内にそれぞれ何人出したか、などなど、これも真剣勝負であった。

実力伯仲というのが真相だろうが、勉強の姿勢は違っていたようである。私たちは授業中より休み時間のほうが、受験参考書首っ引きで熱中した。その話を小学校の同期で一中に行って級長をしている友人にしたら、彼は言った。「二中は羨ましいな。一中でそれをやつたら、ディキヤーフーナーし、と敬遠される」都会派と郡部派との差というものかもしれない。

私たちのころは平均値では二中が勝ったと思うが、とびきりの秀才（たとえば旧制一高への進学など）は一中に多かったようである。

二中生は餡餅、一中生は今川焼きを、校則に違反しながら食べるというのが、ひとつの風俗史になっている。

◇城岳同窓会懇親会余興で盛り上がる◇

平成9年度城岳同窓会定期総会が5月27日午後6時より、東急ホテル1階ゴールデンホールにおいて開催され、引き続き懇親会が盛大に行われた。

総会は、宇良宗真会長（二中33期）の挨拶の後、報告事項や審議事項について、全会一致で承認された。

1. 報告事項

- (1) 平成8年度事業報告（H8.4.1～H9.3.31）
- (2) 創立88周年記念事業状況報告

2. 審議事項

- (1) 平成8年度決算報告及び監査報告
事務局の決算報告および高里政彦監事の監査報告があり、承認された。

(2) 平成9年度事業計画案

事務局より以下のおもな事業計画案が提案され、承認された。

- a 同窓会総会・懇親会
- b 二中健児の塔慰靈祭
- c 創立記念文化講演会
- d 創立記念芸能フェスティバル
(平成10年3月)
- e 学校教育補助事業

(3) 平成9年度予算案

事務局より予算案が提案され、承認された。

懇親会は、宮城肇氏（那覇15期）の軽妙な司会で終始なごやかで、琉舞・フォーク

ダンス・歌などの出演で賑わった。楽しいプログラムが続き、ピンゴゲームで大いに盛り上がった。ピンゴゲームの売上12万円は、創立88周年記念事業期成会に寄付された。



同窓生だより

◇◇◇那覇高校 吹奏楽OB会のあゆみ◇◇◇

昭和50年2月「会員相互の親睦と交流を図り、那覇高校吹奏楽部の充実と発展向上を推進し、併せて沖縄県における吹奏楽の普及と音楽文化の発展に寄与すること」を目的として、OB会が結成され22年が経ちました。それ以前から年齢の近い世代同士が集まり、旧交を温め、昭和40年～43年には3回の演奏会の収益で在校生へ楽器の寄贈も行ってきております。

OB会結成総会は、300余名の会員に対し、100余名が集まる大盛況となり、その後の活動は会

員の吹奏楽部への想いが溢れ、目をみはるものがありました。昭和51年の「楽器購入資金造成ダンスパーティー」に始まり、「歳末助け合い音楽とダンスの夕べ」が2回、「楽器購入資金造成ジャズ演奏会」と続き、毎年「総会並びに新年宴会」を開催するその活動は他のクラブから羨望的だったと自負しております

今年から23期卒～40期卒の青年層の会員が事務局の運営に参加し、去る1月の新年会は154名が集い、在校生の演奏もあり盛況裡に終りました。

現在、会員総数は680名に増え、1期卒～50期卒まで老若男女入り交じり、親子で会員の方もいる程です。

今回、二中・那覇高校創立88周年記念事業に対し、当会として出来る限りの協力する事で少しでも母校の発展に貢献出来たらと思っております。

平成9年11月 吹奏楽OB会

会長 大嶺 正夫
事務局 下地 丈治



◇那覇高校ニュース◇

平成9年度の高校総体は5月30日に開会式が行われ、本校からは選手305名、総勢374名が参加した。参加者数はトップで、競技の総合成績も2位（男子5位、女子3位）と大健闘した。種目別にみると、柔道女子の団体準優勝、女子52kg級においては具志堅優子（2年）さんが優勝した。剣道女子では団体優勝し、親川志奈子（2年）さんが個人で2位になった。弓道男子の個人で新垣徹（3年）君が2位につけた。空手道の女子団体組手の準優勝、団体型で3位に入賞した。水泳は親泊昌彦（3年）君の1500m自由形の優勝につづき、各種目において上位にいくこみ女子2位、男子4位につけた。自転車も4kmチーム・パーシュート2位、スプリントの真境名隼人（3年）君が2位に入るなど、全員がよく活躍し総合3位に入った。テニス女子も団体3位に入った。その他の球技や陸上などの競技においても、ベスト8やベスト16に入るなど大活躍した。

第24回体育祭は「輝け！太陽の下で色あせない僕らの青春」テーマに、10月5日、全校生徒1700名が、沖縄の伝統に根ざした棒術（2年男）エイサー（3年男女）等の演技、日頃の学習の成果をもとにした柔道や剣道の技の紹介や女子のダンス等がグランド狭じと繰り広げられ、躍動する若いエネルギーに溢れていた。

文化系クラブにおいては、吹奏楽部が県大会において金賞を獲得して九州大会に出場し、銀賞を得た。また、全国高文祭にも県代表として出場した。全琉図画・作文・書道コンクールの各部門に最優秀賞をはじめ多数の入賞者が出了。



事務局より

◆募金活動にさらなるご協力を！

募金に協力下さいましたみなさんへ感謝申し上げます。

現在の募金状況（H9.10.31現在）

二中卒	2,560,500円
那覇高卒	12,139,878円
企業	3,220,000円
その他	656,000円
合計	18,576,378円

（目標達成率 53.1%）

◆二中・那覇高校創立88周年記念式典

期日：平成10年10月17日（土）午後2時

場所：那覇高等学校 体育館

◆故源ゆき子先生のご遺族より香典返し◆

故源ゆき子先生のご遺族より、創立88周年記念事業期成会へ十万円の香典返しがありました。

源先生は、明治37年宮古平良市の生まれで、大正13年東京女子高等師範学校（現お茶の水女子大学）卒業。佐賀県立高等女学校、山口県立高等女学校、沖縄女子師範学校、県立第一高等女学校、私立沖縄家政高等女学校の教諭を歴任。戦後は、糸満、那覇、首里の各高等学校に勤務。那覇高校には、首里高校分校から独立した昭和23年から同37年まで勤務。混乱期の学校の充実、発展に寄与された。

昭和43年から63年までの20年間、沖縄ひめゆり同窓会5代目会長として後輩の指導にあたられた。

城岳同窓会会報

編集発行 創立88周年記念事業期成会
総務委員会（委員長：神谷尚）

〒900 沖縄県那覇市松尾1-21-53

電話 098-867-2525